

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」の領域においては、文章に表れているものの見方や考え方について、「自分の考えをもつ」ことが概ね良好であり、他者の考えやものの見方を自分で咀嚼して自身の思考につなげることができている。 「書く」領域については苦手意識の個人差が目立ち、会話体での作文は可能だが、条件が多くなると無解答になる傾向も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く力を養うため、短作文の課題を与え、また、他者の話し合いの様子を観察する時間も設け、「どのような表現なら相手に分かりやすく伝わるか」を客観的に学ぶ機会をつくる。 文章の読解後に作者や筆者のものの見方、考え方について自分の考えをまとめる時間を増やす。 学校図書館を活用し、情報収集の力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題作文の作成指導時に、意見文や鑑賞文、感想文とテーマ別に取り組んだことは効果的であった。また、課題作文をもとにスピーチと結びつけた学習は、論理的な思考を育てる上で効果的だった。より効果的な指導の工夫が今後の課題である。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 「技能」の観点、「数と式」の領域は理解度が高く、基礎基本となる計算がしっかりとできていることがわかる。しかしながら、学年の1割程度の生徒はまだ基礎基本となる計算ができていない。 「見方考え方」の観点は低く、その中でも記述式の問題に対して苦手を示す生徒が多く、無解答の生徒が多い。一つの問題を様々な方法で考える力とそれを記述する力が足りない考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本をつけるために週1回の宿題プリント、小テストを引き続き行う。また低学力の生徒を対象に週1回行っている補習で、既習事項の補習も行っていく。 様々な考え方を共有し、その考えを書くような問題を授業で扱うようにしていき、何度も練習する機会を作り、身に付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 週1回の宿題プリント、小テスト、また低学力の生徒を対象に週1回行っている補習を通して、基礎基本を身に付けることができた。 様々な考え方で解く授業を行ったが、なかなか理解できる生徒が少なかった。日ごろから多く扱うように身に付けていく必要がある。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の結果を見ると、「知識・理解」の問題の正答率は高いが、「思考・判断・表現」の正答率が低くなっている。生徒が既習事項を活用して思考する学習課題を提示して、思考力の育成を図る必要がある。 授業では多くの生徒が積極的に発言するが、クラスによっては、一部の生徒に発言が偏っている傾向が見られる。学び合いの促進をしていくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元を見通した問いを設定し、単元全体で何を学習したかを整理していくことで、「知識・理解」の定着を図っていく。 生徒が資料を活用して思考する学習課題を計画的に設け、課題解決型の授業をしていく。 密を避けながら、グループでの話し合いをしていくことで、考えたことを共有させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業で単元を見通した問いと、それに対応した本時の問いを意識させたことで、見通しをもって学習させることができた。 話し合い活動が制限される中で、生徒が意見を共有し、対話的な学びを充実させていくことが課題である。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 休校と実験器具を共用しにくい状況があったため、実験を班ごとに行うことがあまりできなかった。そのため多くの実験は演示実験で行った。また、班学習を行うことが困難である時期が長かったことと授業内容を例年よりも短時間で終わらなければならぬため、思考力が定着しているかどうかは課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識に関しては基礎用語のプリントを用い、定期テストなどに基礎用語問題を取り入れたり、長期休暇中の宿題出取り扱うことに対応した。実験に関しては演示実験を班ごとに行うことによって自分でふれることは難しいが、近くで見ることができるよう工夫した。班活動の代わりに、自由な人数の小グループでソーシャルディスタンスをはかりながら活動することによる活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護めがねの問題がとてども困った。貸し出しで行っているため、クラスの実験ごとに生徒と教員で2回アルコール消毒を行った。消毒に時間を取られるため、実質の実験時間が制限されるだけでなく、消毒がきちんと行えているかは気になるところであった。少人数グループでの活動は活発に行われていた。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 前向きに取り組もうとする生徒が多い。合唱への意欲も高い生徒が多い。器楽は個人差が大きい。 コロナ禍で、歌唱表現、リコーダー演奏、グループ練習など、制約が多くある影響がある。 表現活動に意欲的な生徒が多い。 	<ol style="list-style-type: none"> 授業開始時に、本時の内容、目標を板書し、全体で確認してから始める。 スモールステップ 様々な楽器を体験させる。 授業規律の徹底 <p>音楽を愛好する心情を育てていくため、様々な音楽に触れさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始時に、本時の内容を確認してから授業をおこなったので、見通しや目標をもたせて授業ができた。器楽歌唱ともに意欲的に学習していた。共用備品を使用するときの消毒や、手洗い、手指消毒の徹底を行った。歌唱活動が制限される中、弦楽器(箏曲・ギター)を中心に表現活動をすることができた。
美術	<ul style="list-style-type: none"> 授業でのポイントを良く理解し、活動の充実につなげることができている生徒が多くをみしている。 真面目にコツコツと取り組む姿勢が個人個人の能力を向上させている。 普段の生活の中からヒントを得る視点が足りない。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に美術的な感覚を働かせその視点を表現や鑑賞活動に生かす視点や、逆に授業での学びを生活の中で生かすための視点について指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が日常的に感じたり考えたりしていることを表現させることができた。 今後タブレットを用いた学習が組み込まれることを踏まえ、ICTを活用し学習した内容を普段の生活で生かす視点を育てていく。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律に問題はなく、前向きに取り組もうとする生徒がほとんどである。 自己の課題を意識し、意欲的に運動に取り組んでいる。 仲間を気遣うことのできる生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを活用し、個々のねらいを明確にして取り組ませる。 スモールステップで行い、チームティーチングを有効活用し、技能を習得させていく。 生涯にわたって運動に親しみ態度を育めるよう、運動の楽しさを味わわせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会が中止となり、保健体育の授業の成果として最上級生の姿を見せる場を設定することができなかった。 チームティーチングや学習カードを活用することで、個別の指導を充実させることができた。 自分達で練習を選択する場を設定し、仲間と協力し、自ら運動に取り組む姿勢を高めることができた。
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> 試行錯誤しながら工夫しようとする創意ある生徒が多く、自主的に学習を進めたり、よく質問へ来る生徒も多い。 道具の扱いは非常に器用で、新しい実習作業にもすぐに適応できる。 日常生活との関連について積極的に検討し、製作品に活かそうとするが、一方でコストと技術のトレードオフをうまく考慮できない場面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 製作品に対して正確な見通しが持てるよう、進行管理の方法について、視覚支援を用いながら重点的に指導を行う。 ICT機器の活用や、アクティブ・ラーニングの視点を積極的に取り入れた実践を行う事で、生徒たちのチームで働く力をより高め、日常にある課題に対して考え抜く力を育成してゆく。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習題材について、具体的な例や日時を伝える事で、見通しを持たせて作業させる事ができた。 ICT機器を用いて授業を進める事ができた。特に、タブレット端末を用いて能動的なプログラミング教育を行う事ができた。 いくつか実施の難しい実習題材や話し合い活動があり、考えを他者と共有する事や自分の考えを深めるという点においては、課題が残った。
外国語(英語)	<ul style="list-style-type: none"> 授業には概ね真面目に取り組んでいる。「書く」「話す」という表現する力に課題が見られる。既習事項のポイントを押さえて、文章を構成する力をつけることが求められる。 読むことに関しても、300語程度のもまとった文章を読んで理解することに苦手意識を持っている生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 文構造について、毎時間のドリル練習時に指導をしている。その上で、文法を使った表現活動に力を入れ、定着を図っていく。語彙力や重要連語テストで基礎力の向上と、レクレーションを行い、基本的な暗唱で表現のインプットを図る。また、即興的に英語を活用する力も段階的に指導していく。読む活動では、多くの英文に触れさせ精読も行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「話す」活動として2学期以降チャットやスピーチ、ディスカッション等の活動を行い、基礎的な英単語や文型を使って話そうとする意欲がいった。またALTとパフォーマンステストを行い即興的な会話も試した。 入試へ向けて「読む」「書く」活動を集中して行い徐々に慣れてきた。語彙力や文法の正確さを高めることが課題である。
総合	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行が中止となり、地域学習として計画していた課題学習や活動はできなかったが、事前学習として古都について調べ学習を行い発表した。進路学習は、自己の進路を主体的に考え課題解決に向けて、主体的に取り組むよう計画的に学習している。これまで面接練習や課題作文対策を積極的に行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 他人に伝えるコミュニケーションや自己PR力を高め、前に踏み出す力を高めていく。話し合い活動の形式を工夫し取り入れる。今後の面接練習に向けて、生徒がより自己の考えを深められるようにする。自らの進路を切り拓く力をつけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの進路を主体的に考え、切り拓く力をつけていけるよう日々の学習や学校生活へ取り組んだ。面接練習や課題作文を行い、考えをまとめて伝える練習を行った。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 学年が上がる毎にテーマについて深く考えられるようになってきた。自分の考えをワークシートに記述し他者に伝えることはできるが、他者からの異なった意見や違った視点に対し自分の意見を展開して議論につなげる活動は苦手な様子が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマについての話し合い方を工夫する。例えばブレインストーミングなどの対話法を取り入れるなど話し合い活動を活性化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマについて集団討論を取り入れるなど工夫考えさせることができた。日常の中で考えたことや感じたことを意識させ生活させることを意識し指導にあたる事が課題である。